

※インターネット「はらまち九条の会」で、「九条はらまち」の全号を見ることができます。



九条はらまち

「はらまち九条の会」ニュースNo. 101

2009(平成21)年6月15日(月)発行

＜1960(昭和35)年6月15日、日米安保条約反対のデモ中、東大生の樺美智子さんが圧死＞

50年前の日米安保条約に反対する国民運動は、日本の歴史上かつてないほどの高まりを示した。この日も全国で580万人にも及ぶ労働者の抗議ストが行われ、10万人のデモ隊が国会を取り囲み、その機動隊との大混乱の中で東大生樺美智子さんが圧死する。「誰かが私を笑っている/向こうでも こっちでも/私をあざ笑っている/でもかまわないさ/私は自分の道を行く/笑っている連中もやはり/各々の道を行くだろう/よく云うじゃないか/「最後に笑うものが/最もよく笑うものだ」と/でも私は/いつまでも笑わないだろう/いつまでも笑えないだろう/それでいいのだ/ただ許されるものなら/最後に/人知れずほほえみたいものだ」(1956年樺美智子作『最後に』・墓誌より)



戦争を知らない子供の戦争後体験

原町区北原 荒木貞夫

直接戦争の体験を知らない私は、昭和十八年十一月七日生まれます。母親の胎内と、生まれてから一年有余の期間が、戦争の実体験となります。すでに、私の父荒木茂雄は出征して、仙台の駐屯地に居たという話を聞きました。

私の部落は旧大森村の北原部落で、当時は成人した男は赤紙でことごとく出征していました。ですから農業も女手だけで行っていました。出征するまでの男が農作業の手伝いをし、やっとしのいでいたとのことでした。

戦地に向かう時「家族を頼む」の紙切れを汽車の窓から投げた父

私が生まれて百日目に、父は仙台の駐屯地から汽車に、乗せられて戦地に向かうのですが、その間、母親と姉、私と親子四人での対面は一度だけで、私はまだ生まれて間もないので分からなかったのですが、父は三歳ちよつとの姉に泣きすがられて、泣く泣く子供たちを頼むと母親に託したそうです。

いよいよ父が仙台から戦地に向かう日が来て、父は常盤線で我が北原の部落を通過するとき、汽車の窓からマッチ箱に「家族を頼む」と書いた紙切れを入れて、大滝さんの田んぼに投げ入れて行ったそうです。その時の父の心の中は大変な苦

痛であったと思います。とてもとても「天皇陛下万歳」という心にはどうもいならなかったと思います。

父はフリーピンのミンダナオ島で戦死

片道切符の船に乗せられて、父の向かった先は、フリーピンのミンダナオ島でした。行進の途中、崖縁のところでは昼飯をとっているさなかに、米軍の機銃掃射を受けて全滅したと報告されました。戦没日はミンダナオ島コタバト州で、昭和二十年四月二十九日です。



働き盛りの三十七歳で家族を残しフリーピンで戦死した父・荒木重雄さん

働き盛りの三十七歳で家族を残しフリーピンで戦死した父・荒木重雄さんが、そんな中でも何人か生きて帰ってきた人がいて、今から十四年前に当時の状況を報告するために、訪ねてきてくれた方がおりました。自分も年をとって先も長くないので、今のうちに戦友のところを訪ねているのだと。戦後長い間、自分だけが生き残ったことに負い目を感じ、どんなにか辛い生活を送ってきたのであることを思うと、死んでも生きても地獄だと思いました。

父のいない貧しい家で頑張った母

その後私たち家族三人は、父が戦死したため、一人一反歩の土地と、バラックの掘つ立て小屋を建ててもらい、バック(分家)に出されましたが、箸すらなく屋敷の木を削って箸を作り、家はスシカワ(杉の皮)の屋根だったので雨漏りがひどく、家中にバケツやボロなどを並べたのを覚えています。粘土で作った壁はすぐはがれてしまい、母は粘土に「押切り」で切った藁を混ぜてこねて、篠竹で編んだ壁に塗り込んで補修しました。小さい私が材料を差し出す仕事を手伝った事は、今でもハッキリと目に浮かんでいます。

誰もいない家の前で大泣きしていた私

何もないので母は、手間取り(上その農家の手伝い)や、自分の家の野良仕事に明け暮れ寝るのがやっとでした。小さい私は夕方遊びから帰って来ると、誰もいない家の前で決まって大泣きしたので、近所の人たちから夕方になると、「そろそろサイレンが鳴るぞ」と言われていたそうです。(裏のページへ)



▲戦後間もない頃、田植えのユイの共同作業で。旗には「原町区北原第五班」の文字が見えます。

(表のページより)

米粒の少ない「かてめし」の毎日でした

とれたお米は供出するので、ジャガイモ、サツマイモ、大根の葉っぱ、麦などを飯に入れた「糎飯(かてめし)」で、どこに米粒があるのか分からないほどのご飯が常でした。家で食べるそのわずかなばかりの米も秋の収穫期の頃には底をついて、本家や母の実家に借りに行かされたこともしばしばでした。私が学校に行くようになる、姉と私の学費を納めるのにお金がかかり、生活は益々厳しくなりました。

美味しかったおじさんのお弁当

そんな時期、赤い自転車に乗ったおじさんが、家の廊下で食べるようになった。その弁当を見ると、とてもおいしそうなお焼餅、煮豆など、私たちにはとても食べられないものばかり。私はちやつかりとおじさんの隣に座って弁当を見つめていると、「食べつか、ほら」と、とても美味しい煮豆を手のひらにのつけてくれました。その味は今でも忘れられない。その後、赤い自転車のおじさんは、私のお父さんになりました。

学校に行くようになって、いっこうに生活は良くなる。学ランで通う生徒を横目で見ながら、五年生まで「しきし」のあたたかゴム紐の「モンペ」を歩いて、同級生にからかわれながら学校に通った悔しい経験は忘れられません。全体的に我々の年齢層は、片親が多かったし、食料にも困った時代でした。

憲法九条は守らなければならぬ

いつの時代でも、戦争で犠牲になるのは一般の人々で、弱い人ほど被害は大きい。それもこれも、この世に戦争が無ければもっと平和にのんびり楽しく生活出来るのに。

今政府は、平和憲法を奪って再び来た道を歩もうと、大きく舵を切ろうとしています。世界中を巻き込んだ苦い戦争経験を繰り返さないためにも是非とも憲法九条は守らなければなりません。(本会会員)

〇「私の戦争体験」の感想、あるいは原稿(400字原稿用紙4枚以内)をお寄せください。今こそ話される時です!

会員からの意見 その②



手作りの「九条カード」を付けて歩く

この度は、盛大且つ有意義な総会を終えられ、お慶び申し上げます。

過日、踏切で私の前にいらっしゃる七十代くらいの御婦人がリュックの背と胸元に、たどたどしい手書きの「私は九条を守ります」の趣旨のカードを付けているのを目にしました。多分大きな組織の会の運動の一環ではなく、個人で、ご自分の言葉でメッセージを発信しているように思われ、少なからず衝撃を受けました。

そして「これなら私にも出来る」と思い、早速<写真>のようなカードを作りウォーキングの折や個人的な時に付けて歩き始めました。先週のウ

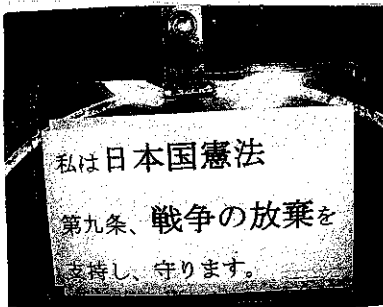
ォーキングの帰り、我が町狛江駅頭にて「九条の会」の署名運動に出会い、私のカードを見て興味を持たれ、そして感動したともおっしゃって下さいました。志を同じくする方には温かく受け入れて貰えますが、いい事ばかりではない事も覚悟しなければならぬと思います。狛江でも上映した『日本の青空』、そして鈴木安蔵氏の話も出て、「是非会員に」と請われましたが、署名だけにさせて頂きました。

手前味噌になりましたが、会員活動の報告(?)をさせて頂きました。(東京都・堀内宣子様)

私の会報活用法「知人に差しあげる」

「九条はらまち」の会報が届いたならば、最初から最後まで全部読みます。それからもう一回「私の戦争体験」のページを読みます。

そこで「私の戦争体験」のページを上着のポケットに入れ持ち歩いており、それなりの知人等に会った時、これを読んでみたらと差し上げております。又、私なりに判断をして、活動の一つとして、他のページの会報と一緒に差し上げる事もあります。.....(原町区R. A様)



事務局より

◆「若い人たちの参加のためにも『はらまち九条の会』のホームページを作っては」という意見と担当者の申し出がありました。事務局では、開設の方向で話を進めています。市民運動のあり方も変化しています。ご意見をお寄せください。

◆「会報の発行だけではダメ。町に出て街頭で活動したり、署名活動などをして平和憲法をしっかりと守ろうと一般市民に訴えなければならぬ」「成人式の会報などあんなに硬い紙面では若者は読んでもくれないと思います」「目が悪く、もっと読みやすい会報にしてほしい」等々、さまざまな意見が事務局員の耳に届いています。

◆ソマリア沖への海自派兵、いきり立つ北朝鮮、その他問題も山積み。解散、総選挙も間近のようです。国民の政治への最大の意思表示は選挙ですが、「嘘をつかない、騙されない」選挙に。

◆2年前、市内4つの九条の会が「憲法九条を護ることを求める意見書」を南相馬市議会に提出し、8ヶ月もの慎重審議の結果は「否決」でした。一体「公」の議会が憲法九条や平和を否定するとは信じ難いことで、「大きな失望と呆然と諦観」を味わいました。

今年2月、私たちは「非核宣言」の再宣言を市に要望し、6月24日に議会で議決される見通しですが、先例があるので疑心暗鬼で議会を見ています。市民のあり方がそれなりの議会ということなのでしょう。

「はらまち九条の会」事務局員連絡先 (市外局番 TEL0244)

- 〇平田慶華会長 TEL24-1211
- 〇井上由美(会計) TEL22-7511 FAX26-0892
- 〇山崎健一 事務局長 TEL22-8631 (〒975-0014 福島県南相馬市原町区西町3-53-2)
- 〇石田賢二 TEL22-4037
- 〇早坂吉彦 TEL22-0326
- 〇番場恵子 TEL22-0715

